

Title	アダム・ スミス蔵書目録新版
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1933
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.27, No.5 (1933. 5) ,p.755(97)- 758(100)
JaLC DOI	10.14991/001.19330501-0097
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19330501-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

アダム・スミス藏書目録新版

小 泉 信 三

A Catalogue of the Library of Adam Smith. Author of the "Moral Sentiments" and The "Wealth of Nations". Second Edition. Prepared for the Royal Economic Society. By James Bonar. With an Introduction and Appendices. MacMillan and Co., Ltd. London 1932.

ジェムス・ボナアの編纂に係るアダム・スミスの藏書目録は既に廣く知られてゐることであるから今更其價値を説くには及ばぬであらう。本書は其第二版である。初版は殆ど四十年前、一八九四年九月二十日、當時倫敦ユニヴシテイ・カレッジに會合せる經濟俱樂部(Economic Club)の爲めに作成されたが、第二版も大體同じプランに依て、今回は王國經濟協會の爲めに編纂されたものである。但し同じプランには據つたが、内容は擴張された。それは此年月の間にアダム・スミス及び其藏書に對する世間識者の注意が進み、彼れの藏書で所在の明かになつたものが新に増加した爲めである。

初版の序文の終りにボナアは斯う書いた。「事の性質上本書は不完全なものである。併し乍ら此目録の刊行其事が、或は行衛不明の書卷の隱家を明にするかも知れない」。果して彼れの豫想に違はず、世人のスミスの藏書に對する興味は喚起せられ、此の第二版では可なり收録書目を増すことが出來た。舊版では記載書目約一千部約二千二百

冊と記されてゐるが(p. vii)、新版では大凡一千一百部二千二百冊となつてゐる(部数が増して冊数が従前通りであるのは不審であるが、今計算の違がないので姑らく記載の儘を轉記する。p. viii)。加之編纂者は、今回更にスミスの蔵書が其著述に如何に利用せられたかを一層委しく示す爲め、引用と参照とを多くしたので、舊版の本文一二二頁が新版では大體同じ組方で一九八頁、追録を加算すると二〇四頁に膨脹し、興味ある讀物としても價值を増した。これが舊版と新版との第一の相違である。

此目録の緒言の中で特に吾々に取つて愉快に讀まれるのは、スミス蔵書の可なり大きい一部分が新渡戸稻造博士の手で購入されて日本に渡來したことを記してある一節である。アダム・スミス蔵書の行衛は既に舊版の緒言にも載つてゐることであるが、改めて記せば、スミスが死ぬと、其蔵書は全部他の財産と共にスミスの従弟デギッド・ダグラス、即ち後のレストン卿の手に歸し、卿の死後其の二人の娘である、プレストン・パンズ(Prestonpans)のカニンガム夫人(Mrs. Cunningham)及びエチンバラオのバンナマン夫人(Mrs. Bannerman)に均分された。バンナマン夫人の手に歸した部分は、今安全にエチンバラオのニュー・カレッジに保存されてゐる。それは夫人の死後、其子神學博士デキッド・ダグラス・バンナマンがその相續したスミス蔵書全部を一八八四年と一八九四年と二度に右記のカレッジに寄附したからである。反之、カニンガム夫人に歸した部分は離散した。日本へ來たのも其一部分である。其次第左の如くである。カニンガム夫人は一八七八年、其良人カニンガム卿死去の際にスミス蔵書の一部をエチンバラオで賣却した。其中の數冊は故ホッジソン教授(Prof. Hodgson)に依て買取られ、其死後未亡人に依て大學圖書館に寄贈された(一八八〇年)。此寄附は教授の女婿に當るニコルソン教授の提議に依つたものであるが、其のニコルソン教授自身もエチンバラオの賣立てで買つた若干冊をアダム・スミスの郷里カコウデイの博物館に寄贈した。

さてエチンバラオで賣却されなかつた部分であるが、此はカニンガム夫人の死後其子の自然學者カニンガム教授に傳へられ、教授は生前その奉職した、ベルファストのクィンズ・カレッジ(今日はクィンズ・ユニヴァーシティ)に其一部を寄附した。然るに一九一八年教授が死ぬと其蔵書が賣却せられ、スミス蔵書三百冊は一九二〇年、新渡戸教授に依て購入せられて東京帝國大學に送致せられ、其處で一九二三年六月五日彼れの洗禮式二百年記念日にアダム・スミスに關係ある他の記念物と共に陳列された。此の三百冊は目下河合教授の管理を受けて居り、教授は其目録を作成してボナアに示した(p. xvi, xviii)。此の三百冊の大部分は、ボナアの舊目録に載つてゐるが、併し全く新しいものも二十部ある。其中で最も珍しいものは一七六一年に作成されたスミスの蔵書目録(“Smith, Adam. ed. [sic] A Catalogue of books belonging to A. S. 1761 vol. I.”)である。併し目録の内容は未だ報知されなかつたと見えて、「多分吾が日本の友人等は此事項に對する吾々の curiosity を満たしてくれるであらう」と書いてある(p. 214)。其他の諸冊に就いて言へば、舊版目録の時に比較すると、新しい所藏者が現れ、又舊所藏者にも異動があつた。一々茲には記さないが、舊版 p. xxx 新版 pp. xxxi-xxxviii に掲げられた所藏者名簿に其が示されてゐる。今一つ面白く感じたのは、今度の目録に收められたスミスの老母の肖像である。此畫像は一七七八年に描かれ、スミスの死後は其母方の親戚なるダグラス家及びカニンガム家に家寶として傳へられたものである。ボナアはそれをカコウデイの篤志家ロックハート氏(John G. Lockhart)の好意に依て寫すことが出來た。而して此畫像に就いて「始めて公表せらるゝものと信ぜらるゝ」と書いてゐる(p. viii)。面白うといふのは、茲にスミス研究の權威者にしてスミスと同國人たるボナア氏が始めて公表されるものと信じてゐるスミスの母の肖像が、日本では既に可なり久しく一部の讀書人に知られてゐることである。即ち此像は大正十年以來故福田徳三博士著「國民經濟講話」に掲げら

れてゐるのである。「肖像及挿繪目次」に由れば、博士は之を今の海軍主計大佐武井大助氏から贈呈せられたとある。武井大佐は東京高等商業學校の出身で、二十餘年前即ち明治四十二三年の頃、筆者等と共に福田博士の千駄谷の自宅に於ける國富論輪讀會の熱心なる會員であつたが、夙く官命を帯びて渡英した機會に特にカウヂイを訪れて里人とアダム・スミスの事を談じたと傳へ聞いた。問題の肖像寫眞は恐らく此機會に手に入れたものであらう。序に記せば、多くの日本人がスミスの遺蹟を尋ねることはボナアも特に記して居る。「アダム・スミス記念館なるものがカウヂイに一八九九年に建てられた。又其より新しい戦争博物館の中には全部を擧げてアダム・スミス記念物を陳列せる一部がある。此町は今日は經濟學者に取つての承認せられた巡禮地であり、其中で吾等の友、日本人が特に顯著である。」(p. viii)。又ボナアは別に、スミス蔵書の日本渡來の事を記したところでも、「此の共通の偉人に對する傾倒に於て、吾々は最早互に他人 (foreigners) ではない」と記してゐる (p. xvii)。何れも日本の經濟學研究者に取つて愉快なる記事と謂はなければならぬ。

最近經濟文獻

〔理論經濟學〕

- * 辨證法的經濟學方法論 アベズガウス・ドウォーコル著 岡本誠一郎・稻葉明男共譯 菊判二三八頁 白揚社
- * 經濟學入門—資本論の方法論的研究—マルクス・レーニン主義講義録局編マルクス主義經濟學研究會譯 四六判二八五頁
- * 經濟原論(全訂改版) 山崎覺次郎著 菊判 中外書房
- * マルクス主義貨幣論 カウツキー著 高村雪夫譯 四六判：勞農書房
- * 價值と價格の理論の數學的研究 フイツミアア著 久武雅夫譯 菊判 裳華房
- * 國民經濟の意義 西村文太郎著 菊判 明大學會
- マルクスに於ける平均利潤率(經濟論叢、三六卷四號、昭和八・四、一九一三六頁) 高田保馬
- 資本主義經濟機構に於ける價格の職能(國家學會雜誌、四七卷四號、昭和八・四、三八一五九頁) 土方成美
- Clausing, G.: Reine und realistische Wechselagenlehre. (Schnollers Jahrbuch. 57, 1. 27-40. Feb. 1933.)
- Jecht, H.: Wirtschaft und Wissenschaft. Bemerkungen zu dem Werk von Gott-Ottlienfeld (Finanzarchiv 1-4, 562-568.

最近經濟文獻

〔經濟思想史〕

- März, 1933)
- Leener, G.: L'économie libérale et l'économie dirigée. (Revue d'Eco. Pol. 47. No 1, 1-30. Jan-Feb. 1933.)
- Rigou, A. G.: A Note on Imperfect Competition.—The Imperfection of the Market (The Economic Journal. 43, 160, 108-112. March. 1933.)
- Pintschovius, K.: Wert und Preis als Ausdruckformen verschiedener Entwicklungsstadien. Zu F. von Gottis neuem Werk "Wirtschaft und Wissenschaft." (Schnollers Jahrbuch. 57, 1. 97-105. Feb. 1933.)
- Quante, P.: Arbeitsbeschaffung und Rentabilität. (Schnollers Jahrbuch. 57, 1. 41-68 Feb. 1933.)
- Schultz, H.: Ragnar Frisch on the measurement of utility. (Jl. of Pol. Econ. 41, 1. 95-116. Feb. 1933.)
- Shove, G. F.: A Further Note—The Imperfection of the Market. (The Economic Journal. 43, 160, 113-125. March. 1933.)
- Watkins, G. P.: Economics of saving. (Amer. Econ. Review. 23, 1. 61-81. March 1933.)

101 (七五九)